

講義名	教養総合（ヒトを考える）		
科目区分	教養総合		
担当教員	伊藤 淳 / 南木 陸彦		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

ヒトを進化と発育と言う二つの側面から総合的に見ることを目的とし、伊藤淳と南木陸彦の二人で担当する。南木担当部分（1回～8回を予定）では、生物としての人という側面から人とは何かをという問題を考える。ヒトの進化や分布拡大の道筋と環境の変化との関係を考える。チンパンジーやゴリラなどの類人猿の社会行動、身体構造と比較して、ヒトの生物としての特異性を考える。また、性差の生物学的側面と文化的側面を考える。さらに、様々な能力が遺伝によるものが環境によるものかを考える。伊藤担当部分（9回～15回を予定）では、「身体の発育」という側面から成長期における各体組織の発育の特徴を理解し、自成長段階に即した身体活動について考える。また、様々なスポーツ種目のスキル上達過程について講義を進める予定である。これらを通して、ヒトが生物としての枠組みを持ちつつ、一方では可塑的存在であることを学ぶ。

**到達目標**

この科目を通じてヒトに関する多面的な理解を深め、自分自身の言葉でヒトに関する理解を説明できるようになることが目標である。

**提出課題**

2名の教員それぞれが授業中にやや大きな「レポート課題」を課する。「レポート課題」の内容や学習の方策については授業中に指示する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

授業時に、講評・解説を行う。

**評価の基準**

「レポート課題」は各35点×2回、平常点（授業ごとの小提出物など）30点、以上の合計で100点満点とする。

**履修にあたっての注意・助言他**

2回の「レポート課題」のどちらも提出すること。どちらかを提出しないと合格が極めて難しい。この授業はオンデマンド型のオンライン授業で実施する。

<b>教科書</b>
.使用しない。

**プリント資料及び参考文献**

Ryuka Portalを通じて随時配布する

**授業計画**

1. ヒトの起源
2. 類人猿とヒトの身体と社会
3. 様々な生物における性差
4. 性の戦略：ヒトの性差と社会
5. 生物学的性差と文化的・社会的性差
6. 各種の能力は遺伝と環境のどちらでできるのか
7. 共感する能力の起源
8. 南木担当分レポート課題
9. 身体動作に必要な身体の機能
10. 発育段階の特徴
11. 栄養と摂取エネルギー
12. スキル上達過程
13. タイプ分け診断とコミュニケーション方法
14. ライフスキル
15. 伊藤担当分レポート課題

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>	
ア：	PBL（課題解決型学習）
イ：	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：	ディスカッション、ディベート
エ：	グループワーク
オ：	プレゼンテーション
カ：	実習、フィールドワーク

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

授業を聞きながらメモをしたり、ノートを作成して授業内容を整理してください。授業後に学修内容を整理し、次の授業の視聴前に、前回の授業内容をふり返っておくとよいでしょう。この作業には平均的な学生で1回の授業に対して30分程度を充てることになります。

南木と伊藤のレポート課題の対策のために、平均的な学生でそれぞれ半日から1日程度の学習が必要になります。

以上から、この講義の授業時間外の学習時間は、15時間～23時間必要になると考えられます。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**